

学びと交流の新たな拠点 青森・東通村立 東通小学校



本州最北東端に位置する青森県東通村。その中心部に学びと交流の拠点となる統合小学校、『東通小学校』が誕生した。地域の風土に根ざしながら新たな集落的景観を創り出した設計は本間利雄設計事務所担当。連鎖的に覆われた木の香り漂う内部空間は

明るく伸び広がる、変化に富む多様な学習の場を温かく包み込む。こうした設計意図を見事に具現したのが清水建設・熊谷建設工業JVをはじめとする施工陣。その高い技術力と献身的な努力で次代を担う子どもたちに夢と誇りがもてる、ここにしかない学び舎を高精度につくり込んだ。



東通小学校は、平成13年度から3年間の事業として進めてまいりました。11の小学校の統合により発足することとなり、24の集落を学区としております。これまでの集落ごとに学校を配置した方式から、多人数を集めた統合小学校へ教育のあり方が大きく変わることになります。村政の最重要課題に教育環境の整備充実を掲げ、昨年度より

社会に雄飛する人材を

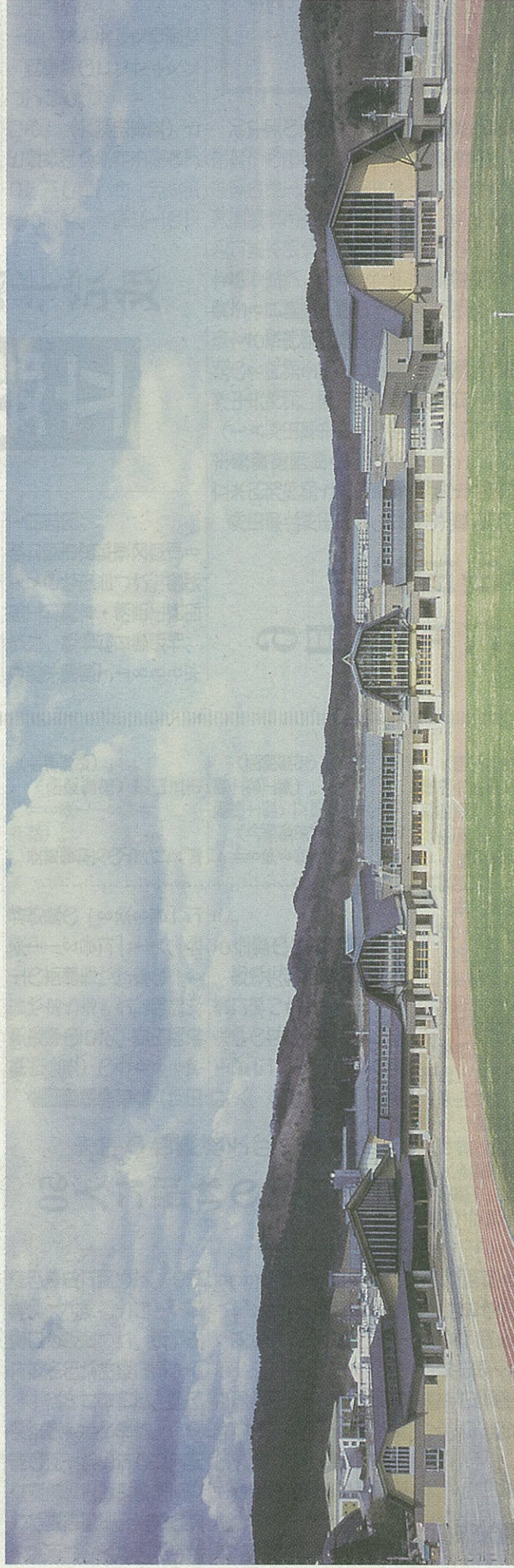
東通村長 越善 靖夫

進めている教育環境デザイン計画を順次実施し、東通村の学方向上を図ることとしております。教育施設や環境を整え、優れた教育活動が実践され、いずれは社会に雄飛する人材が多く輩出されるものと期待しております。

学校運営が効果的に行われるよう、父母や地域の方々のご理解とご協力をいただきますようお願いしております。

東通小学校落成にあたり、子どもたちが輝くよう学校生活を送り、たくましく生きる力をほぐまれるよう祈念申し上げます。

下北の風土に根ざした集落的景観



設計 本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室



安奈のなつたが、さかき、出さ、いかにて、工、年、東、木、構、施、出、に、か、り、て、工、年、東、明、る、く、開、か、れ、た、ラ、ン、チ、ル、ー、ム



設計にあたって 建築家 本間 利雄

青森県東通村は、下北半島の北東端に位置する。豊かではあるものの厳しい自然が広がるなか、村の人々はそこに伝統を守り、生活文化を育んできた。尻屋崎に周年放牧されている養立馬はその象徴でもある。地域との深い関わりを新たな形とともに紡ぎ出すことが今日の公共建築づくりであると感じている。そして地域の景観を充実させ、美しく変貌させるべく、ポールの建築を志す。

このたびの東通村の統合小学校では、それが明確に示されなければならないと考えた。

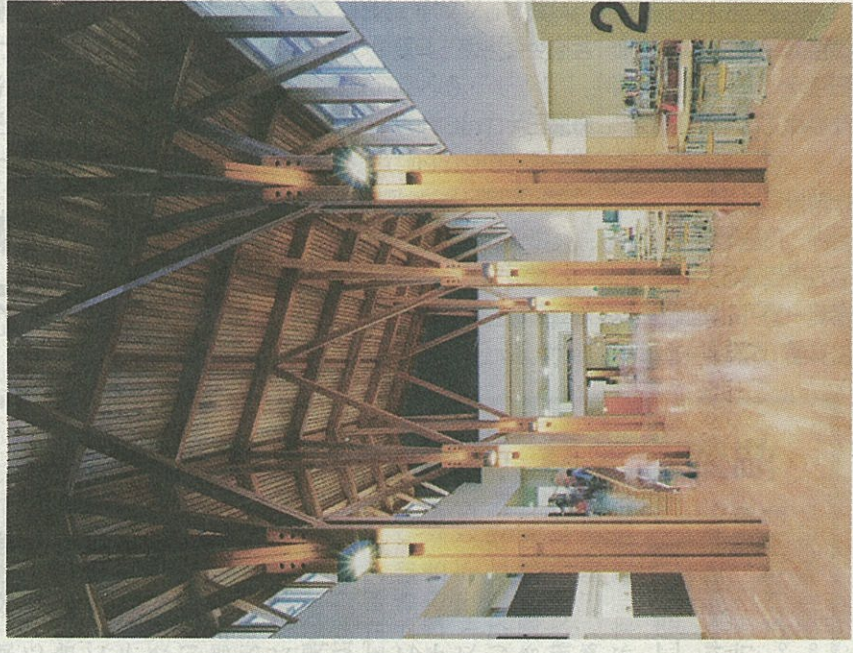
そのため校舎の配置では、緩やかに北に傾斜する校地の北縁、幹線道路に面する部分に校舎を計画した。そのことで村の中心地

としての一体感を視覚的にも機能的にも得られ、また利便性や積雪期にも容易なアクセスが確保される。地域に開かれた学校として村民が気軽に立ち寄れる配置である。

したがって屋外の運動場は校舎の南側に配置されることとなるが、傾斜地を生かすために、スキップフロアによる平面計画の校舎とした。

玄関ホールからアプローチすると、階段とスロープで半階分高い位置にある「ふれあいホール」に導かれる。その東側(左側)に職員室等の管理ゾーン、さらに屋体横のアリーナを置き、西側(右側)に「いきいきホール」や「ランチルーム」を採みながら、2学年ずつの教室・オープンスペース等で構成される3つのユニットがまぐろフロアで連結する。それを1階として、さらに半階分高い2階レベルに図書館や特別教室群を置いた。また生涯学習の場として利用を促進するためにコンピュータ室・会議室を運動させて配置した。

雄々しささとやさしさ、心に残る学舎に



オープンスペースと一体となった教室。ワンフロアで

